

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																					
日本文理大学 医療専門学校		平成16年3月19日		豊住 昭和		〒870-0397 大分県大分市一木1727 (電話) 097-524-2857																					
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																					
学校法人文理学園		昭和30年3月16日		菅 貞淑		〒870-0397 大分県大分市一木1727 (電話) 097-592-1600																					
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																						
医療	医療専門課程	臨床工学科		平成19年文部科学省 告示第二十二号	—																						
学科の目的	ME機器に関する工学的知識を身に付け、正しい操作方法と安全管理を学び、チーム医療の一員となって行動できる「臨床工学技士」の資格取得を目指す。																										
認定年月日	令和3年3月25日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
	3年 昼間		2610時間	2010時間	105時間	441時間	54時間	0時間																			
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
120人	51人	0人	7人	12人	19人																						
学期制度	■前期:4月1日～9月24日 ■後期:9月25日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 100点を満点とし、60点以上を合格とする。																							
長期休み	■学年始:4月1日～4月3日 ■夏季:8月5日～9月24日 ■冬季:12月23日～1月18日 ■学年末:2月13日～3月31日		卒業・進級 条件	進級要件:当該学年で修得する履修科目のすべての単位を修得したもの 卒業要件:3年以上在籍し、本校教育課程のすべての単位を修得したもの																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 常に担任が出席状況を把握し、欠席が続く場合は保護者へ連絡する。		課外活動	■課外活動の種類 ・学生会組織 ・ボランティア ■サークル活動: 有																							
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) 医療機関(病院、診療所)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報)																							
	■就職指導内容 進路探求セミナー(面接講習・履歴書記載法講習) 面接指導			<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>臨床工学技士 国家資格</td> <td>②</td> <td>19人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>第2種ME実力検定試験</td> <td>③</td> <td>19人</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	臨床工学技士 国家資格	②	19人	18人	第2種ME実力検定試験	③	19人	17人	0	0	0	0	0	0	0	0
	資格・検定名	種		受験者数	合格者数																						
	臨床工学技士 国家資格	②		19人	18人																						
第2種ME実力検定試験	③	19人	17人																								
0	0	0	0																								
0	0	0	0																								
■卒業者数 : 19 人 ■就職希望者数 : 18 人 ■就職者数 : 18 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 94.7 %		※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																									
■その他 就職希望者ではない1人については、国家試験不合格者のため、聴講生により再受験予定。		■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																									
(平成 31 年度卒業生に関する 令和2年5月1日 時点の情報)																											
中途退学 の現状	■中途退学者 3名 平成31年4月1日時点において、在学者54名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者51名(令和2年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 成績不良 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任制度を導入し、保護者と連携しながら、個別面談による学修支援を実施		■中退率 5.6 %																								
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ①特待生制度・・・新入生は入学試験、在校生は定期試験により、成績優秀者には当該年度の年間授業料を減免します。 (特待生A:50万円免除 特待生B:30万円免除 特待生C:10万円免除) ②入学金・授業料奨学融資制・・・金融機関と提携して、入学金及び年間授業料等の半分の範囲内で希望金額が融資されます。 (本校在校中に発生する利子は本校が負担しますので、在校中は経済的負担が発生しません。) ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																										
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科の ホームページ URL	https://iryounbu.ac.jp/																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

専攻分野における医療技術者の養成に必要な知識ならびに技術について一貫した教育を施すため、地域企業や外部人材と連携し、より実践的な教育課程を編成することを目的とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

年2回開催する教育課程編成委員会で、カリキュラム内容や学内・学外実習において、委員より実践的な意見を聴取している。その情報を学内で共有して、授業計画や学生への指導方法などに役立て、審議内容であれば、教職員会議にて校長が決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
豊住 昭和	日本文理大学医療専門学校 校長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	
衛藤 路弘	日本文理大学医療専門学校 教務主任兼学科長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	
土肥 裕司	日本文理大学医療専門学校 臨床工学科学科長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	
房前 勲	天心堂へつぎ病院 臨床工学 科長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	②
国矢 京吾	長門記念病院 物品医療機器管理室 副主任	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年間の開催数：2回 開催時期：6月と11月

(開催日時(実績))

第1回 令和元年 7月 4日 18:20～20:10

第2回 令和元年11月 7日 18:40～20:40

第1回 令和2年 7月29日 18:25～19:30 ※新型コロナウイルス感染症対策のため、7月に延期。

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

(改善事項)

・臨床実習に取り組む姿勢や目的意識が欠如しているように感じられる。単位取得のための手段と考えるのではなく、社会に出てからのチーム医療の大切さを実習のうちに学ぶ必要がある。

→実習前に対策として前年度の実習ノートを学生に閲覧してもらい、実習内容を把握することで積極性を持って前向きに捉えてもらうように指導する。

(検討課題)

・臨床実習事前指導の強化を行う。CBT試験やOSCEの導入を検討する。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

病院施設と連携した臨床実習により、実習を受ける学生には、臨床工学技士が行う業務について現場体験することで、学内で学んだことを再認識すると同時に、より実践的な技術を学び、医療人としての自覚を持ってもらう。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実習前に実習生に対して学校教員による事前指導を行い、実習期間や実習に対する基本事項を伝える。実習開始前に実習先と打ち合わせにより、実習内容および学生の学修成果の達成度評価指標等について定める。実習期間中は、教員が実習施設を訪問し、学生の学修状況を確認するとともに必要に応じた指導を行う。実習修了時には、実習で学んだ知識や技術を報告する臨床実習発表会を開催し、臨床実習での達成度を学校教員と実習先の指導者で確認し、最終的な成績評価・単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習	病院で行われる臨床工学技士に関する業務を見学・体験する中で基礎知識・技術を再確認し医療チームの一員としての責任と自覚を養う。	大分大学医学部附属病院、大分県立病院、アルメイダ病院、大分医療センター、別府医療センター、大分岡病院、児玉病院等 総数41施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

社会のニーズに応えることのできる即戦力及び臨床能力の高い医療技術者を育てるために、より実践的な教育が必要となり、教員の資質向上は必須の条件となる。そこで、研修規程を定め、計画的かつ継続的な研修受講を支援し、教員の資質向上を図る。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「第11回大分県臨床工学会」(連携企業等:公益社団法人 大分県臨床工学技士会)

期間:令和1年11月30日(土)～12月1日(日) 対象:臨床工学科 教員

内容:臨床工学技士に必要な知識や技術に関連する学術大会や展示会への参加

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「学級経営セミナー in 大分」(連携企業等:日本図書文化協会・大分県教育委員会・大分市教育委員会)

期間:令和1年12月26日(木) 対象:診療放射線学科・臨床検査学科・臨床工学科 教員

内容:教育関係機関より、いじめや不登校を生まない、望ましい学級集団を育てる基礎理論と具体的方法を学ぶ。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「第12回大分県臨床工学会」(連携企業等:公益社団法人 大分県臨床工学技士会)

期間:令和2年12月12日(土)～13日(日) 対象:臨床工学科 教員

内容:大分県臨床工学技士会が開催する学術大会への参加

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「医療系学生への効果的な学修支援」(連携企業等:東進ハイスクール大学事業部:ナガセ)

期間:令和2年6月24日(日) 対象:日本文理大学医療専門学校全教職員

内容:「新入生の学習力を根本から高める指導のポイント」「国家試験まで影響を及ぼすリメディアル教育の意義」

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

中長期改善施策に基づき、年度初めに設定した自己点検・評価について、学校関係者評価委員会で適切な学校運営が進められているか評価と助言を受け、PDCAサイクルに基づいた改善策に取り組んでいく。(原則として5月に計画、9月前期まで実行、11月に中間報告に確認、その後は改善を行うため、年度において3回実施する学校関係者評価委員会で適時に評価を受けて改善を図る。)

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・育成人材像・職業教育の特色・関連業界のニーズ
(2) 学校運営	運営方針・事業計画・運営組織・人事・情報公開
(3) 教育活動	教育課程・教育理念・カリキュラム・関連団体との連携
(4) 学修成果	就職率の向上・資格取得率の向上・退学率の低減
(5) 学生支援	就職支援・学生相談・経済支援
(6) 教育環境	教育施設・教育設備・学習環境・防災体制
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動・学納金
(8) 財務	財務基盤・予算収支計画・会計監査・財務情報公開
(9) 法令等の遵守	法令遵守・専修学校設置基準遵守・自己評価
(10) 社会貢献・地域貢献	ボランティア活動・地域貢献・社会貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員より、意見として4年制教育への移行や国家試験に向けた学習指導および就職支援の充実を頂き、4年制教育への移行については、準備を開始した。また、学習支援については試験後の面接指導や放課後の学習指導を実施し、就職支援については、面接指導を開始した。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
江藤 芳浩	日本診療放射線技師会 副会長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
佐藤 元恭	大分県臨床検査技師会 会長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
房前 勲	天心堂へつぎ病院 臨床工学科 科長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
大平 智博	卒業生(第16期)	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	卒業生
新納 龍二	保護者(後援会:副会長)	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL: <https://iryounbu.ac.jp/disclosure/>

公表時期: 令和2年6月18日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

ホームページを開設し、常に情報提供を行う。さらに、SNSを活用しイベントの開催案内や実施後の様子などを配信し、広く社会に公開している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育目標
(2) 各学科等の教育	学科紹介・カリキュラム・資格情報・国家試験合格実績・就職実績
(3) 教職員	組織体制
(4) キャリア教育・実践的職業教育	臨床実習・進路探求セミナー
(5) 様々な教育活動・教育環境	学内実習施設・設備
(6) 学生の生活支援	提携アパート
(7) 学生納付金・修学支援	学納金・奨学金・修学支援制度
(8) 学校の財務	事業計画・報告
(9) 学校評価	学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会・自己点検・評価
(10) 国際連携の状況	0
(11) その他	0

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)

URL: <https://iryounbu.ac.jp/disclosure/>

授業科目等の概要

(医療専門課程 臨床工学科) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			数学	解析学および統計学の基礎を学ぶ。医療分野で使用されている高度先端機器の構造と特性の理解には解析学が欠かせず、本科目ではその解析学に関する基礎力をつけることを目的とする。	1・通	45	2	○			○		○		
○			物理学	物理を通して自然科学の一部に触れることで、論理的思考を身につけることを目的とする。	1・通	45	2	○			○		○		
○			化学	基礎知識の習得に加え、身近に存在する化学反応から、化学が生活にとって重要な学問であることを理解していくことを目的とする。	1・前	22.5	1	○			○				○
○			生物学	科学的、理論的思考力を育て、人間性を磨き、自由で主体的な判断と行動を培うと同時に、生命倫理やヒトの尊厳を幅広く理解していく。	1・前	22.5	1	○			○				○
○			人間関係学	グループワークなどを通して医療場面におけるコミュニケーションについて考察し、コミュニケーション力を向上させることを目的とする。	1・通	45	2	○			○				○
○			社会学	こんにちの社会福祉ではすべての人を対象に、その人らしい生活を送ることを目指しています。社会福祉の全体像を理解し、福祉活動への参加のきっかけになることを期待しています。	1・前	22.5	1	○			○				○
○			英語 I	患者と接する際に必要な会話を、聴取と音読の繰り返しにより、英語のリズムに親しみながら、基礎的な専門用語と表現を学ぶ。	1・通	45	2	○			○				○
○			コンピュータ基礎演習	社会人として必須であるコンピュータを道具として使いこなす能力を身につける。ワープロソフト、表計算ソフト等の使用法を学習する。	1・通	45	2		○		○			○	
○			保健体育	ユニバーサルスポーツを学び、患者のQOLを支えることができる思いやりのある医療人の心を育てるとともに、防災や救急法などについても学ぶことを目標とする。	1・通	45	2			○	○				○
○			公衆衛生学	国民の健康を維持するために必要な生活環境、そして現在の医療行政の問題点等を学習し、将来の少子・高齢化社会にいかに対応していくかを考えることができるための基礎知識習得を目指す。	1・前	22.5	1	○			○			○	
○			解剖生理学 I	人体の各器官の構造、形態、機能について学習する。	1・前	45	2	○			○			○	

○		解剖生理学Ⅱ	人体の各器官の構造、形態、機能について学習する。	1・後	45	2	○				○			○			
○		解剖生理学実習	生体計測装置を用いて、生体の主な機能と構造を学ぶ。	2・前	45	1					○	○		○			
○		生化学	生体を構成する分子の構造や特徴、生体内エネルギーの獲得方法などを理解し、さらには不要物質の分解経路など、生命現象を支えているシステムについて理解する。	2・後	22.5	1	○					○					○
○		医学概論	今日の医学がどのように発達してきたか、現代の医学がどのように成り立っているのか、何を目指しているのかを学習する。	1・前	22.5	1	○					○		○			
○		基礎看護学	医療の現場において、臨床工学技士と一番関わりの深い看護師の業務について理解し、医療チームの一員としての相互理解・協力につなげる基礎学習とする。	2・後	22.5	1	○					○		○			
○		血液学	血液の発生と分化、生理学的機能及び血液疾患について学習する。	1・通	45	2	○					○		○			
○		免疫学	最新の内容を中心に病原体に対する生体の防御機構について、その仕組みを学習する。	2・後	22.5	1	○					○					○
○		微生物学	微生物の基礎的な知識、実験方法及び病原体微生物について講義を行う。	2・前	22.5	1	○					○					○
○		病理学	病気の原因とその本態・経過について知り、病的状態における人体の形態的变化を理解する。	2・通	45	2	○					○		○			
○		基礎工学	高校で学んだ電磁気学の復習と、さらに工学技士を目指す上での必要な基礎知識を身に着けることで、専門科目の理解力を養うことができるような学力のレベルアップを目指す。	1・通	45	2	○					○		○			
○		医用工学Ⅰ・実習	電気回路理論の骨子を学習し、直流・交流回路、電界や磁界などの物理的概念の数学的手法を理解することを目標に、基礎を固めることに主眼をおく。	1・通	90	3						○	○				○
○		医用工学Ⅱ・実習	電子回路は音声、画像等の各種信号の増幅や処理を行う上で、必要不可欠であり、その構成要素であるダイオードやトランジスタ等の半導体素子の特性、各種電子回路の考え方を理解する。	2・通	90	3						○	○				○
○		医用工学特論	各種装置の原理、構造を理解するうえで必要不可欠となる工学的知識の理解を目的とし、さらに、国家試験等の演習問題を利用することで工学的知識の理解を深める。	3・後	51	2	○						○				○
○		材料工学	各種の医療機器や人工臓器に応用されているバイオマテリアルの特性について理解しながら、さらに将来の再生医療の現状についても学習する。	1・通	45	2	○						○				○

○		物性工学	多種多様な物理的エネルギー(電気、電磁波、超音波、熱、光、放射線など)が生体構造のどのレベルに、どのような作用を引き起こすかを学習する。	1・通	45	2	○				○		○					
○		機械工学	医療機器の保守、点検、操作、新しい機器の開発において必要となる機械の仕組みや機能についての基礎知識を学習する。	1・通	45	2	○				○		○					
○		情報数学	生体計測・制御・画像処理技術等の基礎となる応用数学を理解し、実際のコンピュータシステムのハードウェア・ソフトウェア・ネットワークについて学習する。	2・通	45	2	○				○		○					
○		医療情報学	各種の医療情報システムの概略、そして様々な情報の流れと情報処理内容の理解を目的とする。	3・後	22.5	1	○				○		○					
○		システム工学	自動制御理論を主体とするシステム工学を通し、フィードバック機構や電気電子工学分野の理解度向上を図る。	3・後	51	2	○				○		○					
○		情報工学特論	生体計測・制御・画像処理技術・システム管理等の基礎となる知識を理解する。さらに国家試験等の演習問題を通して工学的知識の理解を深める。	3・後	51	2	○				○		○					
○		生体計測学・実験	生体計測機器についてその基本原理を理解し、適正な測定結果を得られるよう機器を学び、実験を行う。	2・通	90	3	○			○	○		○					
○		臨床工学特論	過去の臨床工学技士国家試験問題の出題傾向を見出し、要点の解説と演習問題を行うことにより国家試験の対策とする。	3・後	51	2	○				○		○					
○		医用生体工学特論	過去の臨床工学技士国家試験の生体計測分野の過去問題の解説・要点事項のまとめを中心として出題傾向を見出し、集中的に演習問題を行うことにより国家試験の対策とする。	3・後	51	2	○				○		○					
○		医用機器学Ⅰ	多機種に渡るME機器の原理、構造、注意事項の概要を学び、各機器がどのような疾患に使用されるかを理解する。	1・後	22.5	1	○				○		○					
○		医用機器学Ⅱ	多機種に渡るME機器の原理構造を理解し、またその操作法および保守点検を学ぶ。	2・通	45	2	○				○		○					
○		医用機器学特論	医用治療機器の原理、使用法、保守点検、安全対策などの基礎的知識、また最新の動向やその背景にある基礎理論なども含めて学習する。応用力を高めるために基礎的なものを発展させた演習問題などを取り入れ、詳細に解説していく。	3・後	51	2	○				○		○					
○		治療機器学・実験	必要な医用治療機器の原理、使用法、保守点検、安全対策などの基本的知識、または最新の動向やその背景にある基礎理論なども含めて学習する。	2・通	90	3	○			○	○		○					
○		人工臓器学Ⅰ	臨床にて広く応用されている血液浄化療法を理解する上で基礎となる人体生理を医学的・工学的見地より理解する。同様に人工心臓、人工呼吸器についても医学的・工学的意義・重要性、原理・構造などを理解する。	1・後	45	2	○				○		○					

○		人工臓器学Ⅱ	臨床にて広く応用されている血液浄化療法を中心とした治療の医学的・工学的意義・重要性、原理・構造などを理解する。同様に人工心肺、人工呼吸器についても医学的・工学的意義・重要性、原理・構造などを理解する。	2・通	90	4	○			○									
○		人工臓器実習Ⅰ	代謝：透析治療を中心として、治療に使用するデバイスの材料や構造・機能等の基礎知識を深めることの重要性を学ぶ。循環・呼吸：回路の各部品品の必要性を学び、適切な操作と保守を習得する。呼吸：	1・後	45	1	○			○	○								
○		人工臓器実習Ⅱ	臨床にて広く応用されている血液浄化療法を中心とした治療の医学的・工学的意義・重要性、原理・構造などを理解する。同様に人工心肺、人工呼吸器についても医学的・工学的意義・重要性、原理・構造などを理解する。	2・通	90	2				○	○								
○		生体機能代行装置学特論(循環)	人工心肺の原理、目的、適応、操作法、メンテナンスなど要点を重点的に学習する。応用力を高めるために演習問題などを取り入れ、考察や議論を行い、詳細に解説していく。	3・後	25.5	1	○				○								
○		生体機能代行装置学特論(代謝)	血液浄化療法全般について、過去の国家試験の出題傾向を中心に演習問題と解説を行い、国家試験が合格できるレベルまで学習する。	3・後	25.5	1	○				○								
○		生体機能代行装置学特論(呼吸)	生体機能代行装置の原理、目的、適応、操作法、メンテナンスなどの要点を重点的に学習することで実力を身につける。応用力を高めるために基礎的なものを発展させた演習問題などを取り入れ、考察や議論を行い、詳細を解説していく。	3・後	25.5	1	○				○								
○		医用安全管理学・実習	医療機器の臨床応用を高い安全性と信頼性をもって行えるように、医療機器及びそれが使用される病院設備の安全管理に関する基本的知識と技術について学ぶ。	2・通	90	3	○			○	○								
○		医用安全管理学特論	医療機器の臨床応用を高い安全性と信頼性をもって行えるように、医療機器及びそれが使用される病院設備の安全管理に関する基本的知識を学ぶ。	3・後	51	2	○				○								
○		臨床医学総論	人体の解剖生理を十分理解し、器官系統的な病態生理を理解する。また病態の変化と医療機器の関連、検査、治療への流れを総合的に理解する。	2・通	45	2	○				○								
○		臨床医学特論	臨床実習に必要な医学的知識、内科学、外科学の内容を総覧し系統ごとの病態生理を理解する。	3・後	51	2	○				○								
○		麻酔集中治療学	麻酔科学、集中治療学、手術医学における感染防止、滅菌・消毒について学習する。	2・通	45	2	○				○								
○		臨床実習	臨床工学技士が行う業務を体験し、学内で学んだことを再認識すると同時に、関連業務について実際的な知識と技術を習得する。	3・前	180	4					○								○
○		国試対策講座	過去の臨床工学技士国家試験問題の解説・要点チェックを中心として出題問題傾向を見出し、集中的に演習を行うことにより臨床工学技士国家試験の対策とする。	3・前	60	0				○		○							○
○		総合医用機器演習	過去の第2種ME技術実力検定試験問題の解説・要点チェックを中心として出題傾向を見出し、集中的に演習を行うことにより、第2種ME技術実力検定試験の対策とする。	3・前	60	0				○		○							○

合計	53科目	2610時間(95単位)
----	------	--------------

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	卒業要件：3年以上在籍し、本校教育課程のすべての単位を修得したもの 履修方法：授業時数の2/3以上の出席と成績評価がC以上のものに単位を与える	1学年の学期区分
1学期の授業期間		15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：3年以上在籍し、本校教育課程のすべての単位を修得したもの 履修方法：授業時数の2/3以上の出席と成績評価がC以上のものに単位を与える	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。